です。本タンパク質は、βーシート構造 患ですが、 年期になると二〇%くらいの頻度で心臓 に富むことから、変異のないトランスサ しております。 はトランスサイレチンという名前が定着 たが、様々な機能も明らかにされ、現在 以前はプレアルブミンと言われていまし 因になることも明らかになってきました。 イレチンもアミロイドを作りやすく、老 は遺伝的に変異したトランスサイレチン 過を辿る染色体優性遺伝の形式をとる疾 にアミロイド沈着が起こり予後不良の経 にアミロイド沈着をきたし、心症状の原 FAPは、 アミロイドの前駆たんぱく質 成人期以降、全身の諸臓器

本シンポジウムでは、このトランスサートシスやミスフォールディング病を引き起こすいくつかの血漿タンパク質の研究の世界的権威を招き、講演をしていただく予定です。また、細胞内のたんぱくだく予定です。また、細胞内のたんぱくフォールディングに深く関与しているこフォールディングに深く関与していることから、そうした研究発表もシンポジウ

場では組み込んでいく予定です。第八回世界家族性アミロイドーシスシェで熊本で開催し、二十三日、本シンポジウムを終日山崎記念館で開催することになっております。多数の研究者のご来いる中に組み込んでいく予定です。

析学分野教授 安東由喜雄熊本大学大学院生命科学研究部、病態情報解

医育振興会医学研究助成を行う平成二十三年度(第十六回)肥後

れました。 弘之診療部長で構成され、 県医師会を代表して倉津純一理事、関連 究・支援センターの山村研一教授、熊本 木栄一教授 (臨床系)、丸山徹教授 (薬 究部からは赤池孝章教授(基礎系)、 の七名です。熊本大学大学院生命科学研 それぞれの所属機関から推薦を受けた次 病院からは熊本市立熊本市民病院の津田 センター系からは熊本大学生命資源研 学系)、白石順二教授(保健学系)が、 人について公正且つ厳正な選考が行わ 教授が委員長となって、応募者ひとり 平成二十三年度の助成選考委員会は 互選で荒木栄 荒

大学院生命科学研究部から十名、同薬学医学研究助成金の応募者は、熊本大学

・貝塚 拓 (三十二才)

) 在 三里至 } 孙 熊本大学大学院生命科学研究部 助教

「蛋白質導入法による膵β細胞分化分子生理学分野

佐藤叔史(三十才)誘導技術の開発」

病態生化学分野 明本大学大学院生命科学研究部 助教

害の分子メカニズムの解明」 「低酸素ストレスによる膵β細胞障

石本 崇胤 (三十四才)

助教 消化器外科学分野 特任

の芯用」 したROS制御機構の解明と治療へ「消化器癌細胞におけるCD44を介

小谷(俊介(三十一才)の応用」

る接続可能な有機分子触媒反応の開「金属を用いないケイ素化合物によ任助教 創薬科学分野 大学院先導機構 特

田浦学(二十九才)

•

「HIV自然免疫回避機構に関わる研究員 岡田プロジェクト研究室熊本大学エイズ学研究センター 博士

疾患エピジェネティクスの解明

振興会外国人留学生奨学助成を行う平成二十三年度(第十五回)肥後医育

れました。

の選考も、同日、同委員会により行わとの選考も、同日、同委員会により行わとで、平成二十三年度(第十五回)肥後とで、平成二十三年度(第十五回)肥後と対して、平成二十三年度(第十五回)に後

れました。
本年度は熊本大学大学院医学教育部長れました。

万円が贈呈される予定です。において承認された後、それぞれに十五年の後は、神原理事長に推薦し、理事会

第 第 常

博士課程一年(中 国)熊本大学大学院医学教育部

修士課程一年(韓 国)熊本大学大学院医学教育部

研究生(中 国)

(機能病理学分野)

常任理事 (広報担当) 木原 信市